

地域連携・支援等を取り入れた県立高等学校の学校改革—生き残りをかけた高校改革—

兵庫教育大学大学院 小倉 裕史

1. はじめに

兵庫県の公立高等学校は、平成 26 年度から、普通科及び総合学科の通学区域が、従来の 16 学区から 5 学区に改編され、これまで以上に各学校において、魅力・特色化を進め、生徒が学びたいと思える学校づくりが求められるようになった。魅力・特色づくりには、学校の教育課程や学校行事の見直しをはじめ、更なる開かれた学校づくりを基本とした地域との連携や、大学等との連携による特色づくりが求められている。そこで、著しく学級限の進む兵庫県立北条高等学校の、生き残りをかけた地域連携・支援等を取り入れた、学校改革の取組の成果と課題に焦点を当て、小規模校の地域連携の在り方について考察する。

2. 沿革と急激な学級減の状況

現在人口約 4 万 4 千人の加西市にある、普通科 3 クラス（うちコース 1 クラス）の兵庫県立北条高等学校は、北条町立の実科高等女学校の大正 12 年開校を創立とし、昭和 23 年に同校となった。その後、農業高校と統合し、家庭科や定時制課程が本校及び分校 2 校が設置された。学級数の増加に伴い、県立播磨農業高校と分かれ、昭和 42 年当時の全日制課程は普通科 12 学級、家政科 6 学級であったが、学級数が年々増加し、平成 2 年には普通科 27 学級、家政科 6 学級の 33 学級の大規模校となった。当時は、市内の職業学科を目指す生徒以外のほとんどの生徒が、地域の期待を一身に背負った大学進学実績の高い高校であった。しかし、中学校卒業生の減少に伴い、その後加速度的に毎年のように学級減となり、平成 23 年度に家政科が閉科、24 年度には定時制課程も廃止された。加西市内で唯一の普通科高校であるが、26 年度から 1 学年 4 クラスとなり、危機感を感じて生き残りをかけて学校改革が進められてきたが、31 年度から 1 学年 3 クラスとなり新たな課題に直面している。

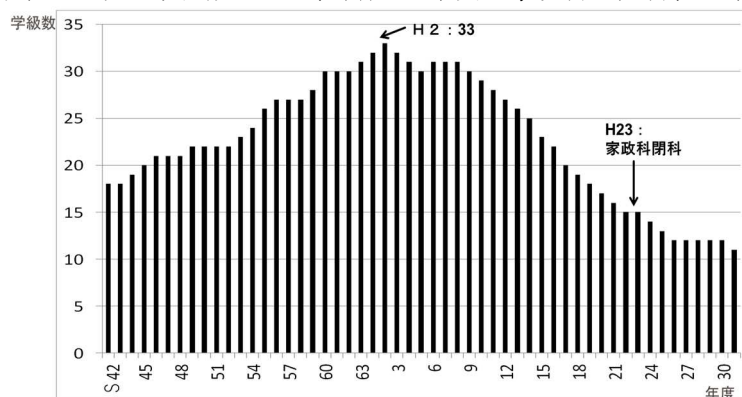


図 1 全日制の学級数の推移

3. 急激な学級減における学校の状況

家政科閉科、定時制廃止の平成 23 年当時の北条高校の状況を、当時から勤務している教員 3 人に聞くと、①「一気に学級減が進んで活力がなかった」、②「地元の優秀な生徒が流出していた」、③「地域に学校が開かれていない状況」、④「意欲の乏しい教員が多く、成果が上がらなかった」という回答が得られた。また、普通科単独校になってからは、地域に出かけてボランティア活動をすることは一切しない状況となった。学級減に伴い生徒数だけでなく教員数も減り、意欲の乏しい教員集団となって成果が上がるはずもなく、余分な仕事を極力したくない雰囲気教員集団に充満し、地域住民からの協力や支援が得られることもなく、学習意欲の高い生徒は、近隣市の高校に進学する状況となっていた。

また、北条高校で勤務する加西市内出身の20歳代半ばの教員2人に聞くと、「当時は、北条高校には行きたいとは思わなかった。今とは雰囲気が全然違っていた。」「勉強する意欲が高い者は100人以上が近隣市の高校を目指した。」「学力不足と通学が自宅から近いという理由で、北条高校へ進学した。」などと述べており、市内の優秀な生徒の多数が近隣市の普通科高校へ流出する状況であった。表1に示す

表1 6～10年前の卒業生の状況

ように6～10年前の卒業生（平成21～25年度卒）の状況は、定員を満たしたのは1年だけで、現在よりクラス数が多いが、国公立大学への進学者が10名まで減少し、進学実績のある学校とは言えない。

卒業年度	H21	H22	H23	H24	H25
現在の年齢	29	28	27	26	25
入学定員（人）	240	240	200	200	200
入学者数（人）	239	238	200	199	191
国公立大の現役合格者（人）	22	26	20	15	10
現役合格率（％）	9.2	11.2	10.4	7.9	5.4

4. 独自の課題と改革

このような状況の中、平成24年度にリーダーシップを発揮する菅野恭介元校長（以下、「元校長」）が赴任し、以後5年間校長として大改革が実施された。

市内中学校卒業生の減少と、公共交通機関が不便（最寄り駅から3.3km）で他市町から通うことが困難である状況であるが、定員を満たし、生徒が行きたい学校に改革して、すべての生徒の思いに応え続けることが重要であった。「みんな満足」「不便でも行きたい」学校を目指し、創立90周年を迎えた平成25年度に、「パワーアップハイスクール～頑張る人をあたたかく応援する学校～」とスローガンを掲げ、教員を巻き込んで、地域と連携して学校改革を進めた。

当時、私は兵庫県教育委員会事務局高校教育課の高校教育改革班主幹として学科・コース等の設置に携わり、元校長が平成26年度に、「教育類型」を「人間創造コース」（以下、「コース」）に改編したいと何度も相談に訪れたのを覚えている。時期をずらして、北条高校PTAと加西市連合PTAが合同で、コース改編を求め県教育委員会に陳情に訪れた。コースの設置に向けて、①市教委や地域からの協力・支援があるのか、②中学校の要望にマッチし定員確保は大丈夫か、③普通科とのカリキュラムや育成する力をいかに明確化して特色を出すかについての課題解決に向けて、何度も高校側と協議を重ねた。

PTAをはじめ、地域からの協力体制が整いつつあった時期であり、元校長の熱い思いや地域の願いは、後に私が平成28年度に北条高校に教頭に着任して、同26年当時のPTA会長より聞くこととなった。縁あって、私は教頭を離れてからも、学校評議員として令和元年度まで2年間関わることになり、3つの立場で6年間関わることができた。

5. 生き残りをかけた教育改革

北条高校の生き残りをかけた改革を、3つの視点でまとめることとする。

(1) 内向き傾向から外向きへ

北条高校は、「学校の魅力・特色化を図る」「地域に開かれた必要とされる学校を目指す」大改革を、社会に開かれた学校づくり、地域との共生を目指す仕組みづくりに取り組んできた。

① 体験活動（地域人材の支援による地域と連携した特色ある授業）

地域人材を特別非常勤講師として活用して、学校裏のため池でのボート実習、市内の水上ゴルフ場でのゴルフの授業、家庭科での保育実習など、体験活動を取り入れた授業を始めた。

② ボランティア活動（地域に貢献するための地域との連携）

地域で開催されるイベントや地元公民館での市内小学生等対象の活動、市内特別支援学校に出向いた交流活動などのボランティア活動等にも、積極的に参加するようになった。現在では全校生徒がボランティア登録を行って、コース生を中心に学校全体として地域のために様々な貢献をし、平成 29 年度には、年間延べ 1854 件（全校生 474 人）実施するまでとなり、地域になくてはならない学校になっている。

③ インターンシップ（就業体験）（地域施設からの支援による体験）

地域施設からの支援により、生徒のインターンシップとしての受入れが増えた。看護分野では加西病院での看護実習、保育分野では子ども園や子育てセンター、教育分野では公民会主催行事やかさい英語村キャンプ、アドベンチャークラブでの体験活動が実施されている。

④ 学校行事（地域からも参加できる学校行事の魅力・活性化）

学校行事にも力を入れ、6 月に 2 日間開催される北高祭（文化祭）は、生徒会主催で生徒自身が企画・運営して最大に盛り上がる状況、1 日は保護者や中学生、地域住民にも公開し、参加者が平成 28 年度から急激に増え続け、令和元年度は 1000 人を超えた。また、9 月の「それいけ若人」という応援合戦で盛り上がる体育大会も、平日開催にもかかわらず保護者を中心に毎年 250 人程度の見学者が訪れる状況になった。2 月に近隣の加西市フラワーセンターを借り実施するマラソン大会も、保護者が見学し終了後に P T A が作った豚汁が振る舞われている。

(2) 改善から改革へ

現状の積み上げ型の改善から、現状に疑問・否定したイノベーションへの改革へ舵を切った。

① 人間創造コースの設置

平成 21 年度から、「教育・福祉・看護医療に携わる者の意識等を身に付け、社会に貢献できる人材を育成する」ことを目標としていた特色類型である「教育類型」（2 月選抜定員 24 人）を、カリキュラムを見直して、地域を巻き込んだ社会に開かれた教育課程の編成、「探究活動」による人間力と学力の育成を目指し、「海外との国際交流や JAXA 等の研究機関訪問に加え、文系・理系各分野の大学・研究機関や小学校、幼稚園、病院等での体験活動に基づいた課題探究型の活動を通してほんものの学力を培い、たくましい人間力を持つ自立した人材を育成する」ために、人間創造コース（2 月選抜定員 40 人）の設置準備を平成 26 年度から開始した。

コースの教育課程の特徴は、図 2 にしめすように、学校設定教科「探究」の学校設定科目「人間基礎」や「人間探究Ⅰ」「人間探究Ⅱ A・Ⅱ B」を設置し、地域と連携した探究活動を取り入れると共に、外国語科の学校設定科目として「グローバルイングリッシュⅠ・Ⅱ」、「ライティングスキルズ」、「リーディングスキルズ」を英語の 4 技能を重視した「アクティブ・ラーニング型」で展開する授業を設置した。

市教委や地域からの協力・支援の承諾も得て、コースの内容に関して市内中学生に進学希望の意見を問うアンケートを実施し、404 人中 189 人が志願希望の結果を得て、兵庫県教育委員会会議で平成 28 年度の開設が承認された。

実際のコースの入学者選抜志願者は、平成 28 年度 66 人（1.65 倍）、29 年度 52 人（1.30 倍）となっている。

学校設定教科「探究」でコース 1 期生（H28 入学生）は、探究活動のテーマとして、①まちづくり、②実用英語、③医療・教育、④科学実験、⑤あびき湿原の保全の 5 つを、地域と連携

して活動し、2年生の3月にコース探究活動発表会をアスティア加西において、地域に公開して実施した。

また、平成28年度から兵庫県教育委員会から「ひょうご学力向上サポート事業」の「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点を取り入れた授業」の指定を受けて、①全教員の研究授業

【1年】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
人間創造コース				国語総合		現代社会		数学Ⅰ		数学Ⅱ		生物基礎		物理基礎		体育		保健	音楽Ⅰ	美術Ⅰ	書道Ⅰ	コミュニケーション英語Ⅰ		英語表現Ⅰ		家庭基礎		情報の科学		*人間基礎		LHR

【2年】

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
人間創造コース	人文類型	現代文B		古典B		世界史A	世界史A	世界史B	世界史B	数学Ⅱ		数学Ⅱ		化学基礎		現代文A	数学B	*生命探究	化学基礎			体育	保健		イングリッシュⅠ		*ライティングスキルズ		*人間探究Ⅰ		総合学習	LHR
	自然類型	現代文B		古典B		世界史A	地理B		数学Ⅱ		数学B		化学基礎		生物		物理															

【3年】

【3年】																																		
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	
人間創造コース	人文類型	*現代文研究		*古典研究				世界史B	日本史B		選択A	選択B	選択C	選択D	選択E			*人間探究ⅡA				*人間探究ⅡB		体育										
	自然類型																																	
											数学Ⅲ			物理生物																				総合学習 LHR

図2 人間創造コースの教育課程表 (網掛けは必修科目、*は学校設定科目)

の実施、②公開研究授業の実施、③主体的・対話的で深い学びの授業工夫、④生徒授業アンケートの実施と検証、⑤研究紀要の発行(H29～)に取り組み、生徒の意欲・学力の向上と共に、教職員の意識改革が進み、授業力が向上した。

② 北条高校活性化協議会の設置と支援

「地域に開かれた学校」、「地域から必要とされる学校」を目指した北条高校と、「加西市の人口を増やし地元企業の活性化を果たす」ために、市内唯一の普通科高校の活性化が重要課題と考えていた加西市と加西商工会議所の考えがマッチして、北条高校PTA、北条高校同窓会、加西市連合PTAを含めた5団体で、北条高校活性化協議会(以下「協議会」)が、平成26年12月に設置された。協議会は、「北条高校の生徒の学力向上及び地域貢献活動等の支援並びに通学の利便性の向上等に取り組むことにより、生徒の学力向上及び生徒数の確保を図り、北条高校の活性化に資することを目的」とし、協議会会長は加西商工会議所の会頭が選任され、協議会事務局が加西市創造部人口増政策課に設置され、次の事業の支援を行うことになった。

- (1) 北条高校生の学力向上の支援
- (2) 通学の利便性に関すること
- (3) 北条高校生の地域貢献活動の支援
- (4) その他北条高校の活性化に関すること

表2に示すとおり、協議会の収入は、加西市補助金、加西商工会議所会員事業所寄附金が大半を占め平成27年度から毎年約1000万円が活用され、表3に示すように使われている。

協議会主催の事業には、(1)北条高校生の学力向上の支援として、①アフタースクールゼミ事業、(2)通学の利便性に関することとして、②通学バス事業、(3)北条高校生の地域貢献活

動の支援として③市内小学校への出前講座支援事業、(4) その他北条高校の活性化に関するこ
ととして、④国際交流事業、⑤PR事業（広報活動支援）等がある。

表2 協議会の収入（平成29年度）

区分	収入額	備考
加西市補助金	6,288,213円	補助率事業費の2/3以上
加西 商工会議所会員事業所寄附金	2,530,000円	
北条高校PTA支出金	100,000円	
北条高校同窓会支出金	500,000円	
雑収入・繰越金	369円	貯金利息
合 計	9,418,582円	

表3 協議会の支出（平成29年度）

区分	支出額	事業
北条高校アフタースクールゼミ事業	5,964,641円	(1)
通学バス事業	318,000円	(2)
国際交流事業	1,200,000円	(4)
PR事業（広報活動支援）	1,684,060円	(4)
市内小学校への出前講座支援事業	81,532円	(3)
需要費（消耗品費・光熱水費等）	169,980円	
繰越金	369円	
合計	9,418,582円	

その経緯と内容を、主に2つの事業について紹介する。

ア 学力向上の支援 「①北条高校アフタースクールゼミ事業」

北条高校生の学力の向上を目指し、生徒確保と活性化、は加西市の人口増加に繋がる活性化を目的とした「北条高校アフタースクールゼミ事業」が、協議会主催で、平成27年度から大手予備校K塾（以下、「K塾」）の講師を招いて英語と数学における放課後特別講座が開催された。

平成26年度にコースの設置と並行して、アフタースクールゼミ事業について、兵庫県教育委員会に元校長が説明に訪れた。県立高校が大手予備校を常に学校に招いて講義をする前例がなく、「北条高校の教員の意欲がないのか。」「公立高校として一企業の予備校を利用するのは公共・公平に反するのではないか。」「北条高校の教員は、予備校に講義をしてもらって恥ずかしくないのか。」という疑問は、教頭として着任してそうではないことがわかった。

K塾の講師を数学と英語で週各1回招いて始まった一斉授業形式（以下、「受験コース」）は、外部広報には大変有効であったが、K塾が目指す高いレベルを求めた一斉講義形式には、生徒のほとんどが付いていけず、開講以来学期ごとに受講者が減り続け、平成28年度も同様で無断でサボって欠席したり、寝ている等の生徒が見受けられた。生徒に聞くと、表4に示すように、難しい問題を学習して応用力が身に付くはずであるが、「学校で習っていない内容なのでわからない。」「理解できないので行きたくない。」などの答えが返ってきた。

表4 「受験コース」のメリットとデメリット（H28 1 学期 生徒への聞き取り調査）

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学入試の難しい問題を学習できる。 ・ 応用力が身に付く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義のペースが速くてついていけない。 ・ 学校の授業でまだ習っていない内容が多く、わからない。 ・ 難しく理解できないので行きたくない。 ・ 90分の時間が長くて、集中力が持たない。 ・ 授業がわからないので、出席しても寝ている。

この状況では、高いレベルを目指す生徒には頑張る意欲が高まらないし、基礎学力の向上を目指す生徒には難しくやる気が出ないのも無理はないと感じた私は、元校長に相談して、以前から関わりのあった兵庫教育大学の数学、英語、理科の3教授に相談した。大学院生や大学生を講師に招いて、寺子屋形式の個別学習形式（以下、「基礎コース」）の設置の検討を協議会に依頼した。

これまでのK塾の「受験コース」に加えて、基礎学力向上を目的とし、学校の授業の復習や

授業で分からなかった所の質問などを取り入れた基礎コースを、2 学期から英語、数学、理科の教科を週各1 回開始した。3 教授から、「将来高校の教師を目指す意欲を持ち、高校生に教える学力の高い大学院生や学部生」を紹介されて基礎コースがスタートした。毎回、3～7 人の兵庫教育大学大学院生等を招き、2 コマ（1 コマ 90 分）の開講となった。基礎コースへは1 年生も参加して、コース1 期生を中心に多く参加した。



図3 兵庫教育大学の学生による基礎コース



図4 K塾講師による受験コース

大学院生による基礎コースの講義は、図3のように、自分のペースで教材問題集を使って学習し、分からないところを質問する個別指導形式で、重要なポイントの別途解説や簡単な小テストを実施して生徒の学力把握やつまづきポイントを克服させる指導となった。K塾による受験コースは、図4のように一斉講義であるが、2 学期からは意欲のない生徒や理解できずに寝る生徒もほぼなくなった。

基礎コースの参加生徒からは、表5のような「授業で分からなかったところがよくわかる。」「重要なポイントが何かがよくわかった。」「頑張る意欲が出た。」などの感想があった。

表5 「基礎コース」のメリット・デメリット

(生徒：H29 質問調査, H31 アンケート調査、講師：H29, 31 兵庫教育大学の講師に質問調査)

	メリット	デメリット
生徒	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ではわからないところがわかった。 ・重要なポイントが何かがよくわかった。 ・教え方が丁寧、説明がわかりやすい。 ・講師に話しやすく、質問しやすい。 ・講師に大学受験の経験等について聞ける。 ・よい雰囲気で学習できる。頑張る意欲が出る。 ・家庭学習の習慣が身に付く。 ・小テストや模試などに直結した取組である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・90 分の時間が長くて、集中力が続かない。 ・一部の不真面目な生徒に影響される。
講師	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生に教える機会が持てて良い。 （兵庫教育大学は附属小学校・附属中学校での教育実習の機会はあるが、基本的に高校での実習はない） ・高校生がつまづくところがわかり、自分自身の勉強になる。 ・教師として教壇に立つ準備ができ自信が持てる。 	なし

また、講師の大学院生等から、大学受験の体験談や大学での学びや将来など身近な話を聞け

ることもあり、気軽に声をかけて質問がしやすい雰囲気も意欲的に取り組む結果となった。

平成 31 年 1 月に 3 年間受講した 3 年生 97 人に対して実施したアンケートでは、「説明がわかりやすい。」「話がしやすく、質問しやすかった。」「年が近くて接しやすい。」「受験についていろいろ聞いた。」「教え方が丁寧でわからないところがわかった。」などの感想を多く得た。

基礎コースで講師を 2 年間務めた兵庫教育大学の大学院生からは、「生徒同志が教えあって雰囲気が良い。」「理解が深まっている。」など、生徒の主体的な学習に繋がっている意見と共に、講師の学生自身にとっても「高校生に教える機会に感謝している。」「知らなかった高校生のつまづきがわかり、大変勉強になった。」など、大きな影響を与えている。

一方、アフタースクールゼミ全体（基礎コース、受験コースを合わせて）の生徒の取組状況は、表 6 にしめすように「①大変熱心に取り組んだ」と「②熱心に取り組んだ」を合わせて 79.4%（コースのみでは 85.7%）、学習効果は結果的に、表 7 にしめすように「①大変効果があった」と「②効果があった」を合わせて 62.6%（コースのみでは 82.4%）となった。

表 6 アフタースクールゼミの取組状況

学習の取組状況	全体[%]	コース[%]
① 大変熱心に取り組んだ	9.3	11.4
② 熱心に取り組んだ	70.1	72.3
③ あまり熱心に取り組まなかった	15.5	11.4
④ 全く熱心に取り組まなかった	1.0	0
⑤ 教科によって違った	4.1	2.9

表 7 アフタースクールゼミの効果

学習効果の有無	全体[%]	コース[%]
① 大変効果があった	6.3	8.8
② 効果があった	56.3	73.5
③ あまり効果がなかった	32.3	17.6
④ 効果がなかった	5.2	0

基礎コースと受験コースの差別化を図った平成 28 年 2 学期以降は、表 8 にしめすように、受験コース、基礎コースともに受講人数は、それまでよりも大幅に増加している。特に、コースの生徒の意欲が高く同 29 年度にはコースの 8 割以上が受講した学期もあった。

表 8 アフタースクールゼミの受講人数

年度	学期	基礎コース	受験コース	合計
H27	1		186	186
	2		105	105
	3		126	126
H28	1		93	93
	2	92	66	158
	3	68	87	155
H29	1	70	94	164
	2	181	78	259
	3	81	127	208
H30	1	66	128	194
	2	108	82	190
	3	94	36	130

しかし、今後も「基礎コース」を継続的に実施するために、主催の加西市と兵庫教育大学、北条高校との協議が重ねられ、平成 30 年 2 月に、「地域創生学習支援事業に係る国立大学法人兵庫教育大学と兵庫県加西市との連携に関する覚書」が、兵庫教育大学と加西市によって交わされた。

受講者が増えた背景には、導入当時は反対していた高校の一部の教員が協力的になり、組織的な取組になったことも大きい。アフタースクールゼミ事業は、協議会や P T A の支援のもと生徒の学力向上に繋がっているといえる。しかし、実施学年
学年主任や副主任に聞くと、受験コースは、「K 塾が目指すものと生徒が望むものがマッチしていない」状況で、30 年度の後半から受講者数が激減したことから、ニーズに合っておらず決して成功しているとは言えない。受講した 3 年生の意見は、「レベルが北条高校にあっていない時があった。」「レベル別に分けて欲しい。」「少人数にする。」などの意見があり、受験コースのやり方の見直しの検討が必要である。

イ 通学の利便性「②通学バス事業」

※数値は受講者の延べ人数（受験コースは英語と数学、基礎コースは英語と数学、理科）1 学期は 1 年生なし、2 学期は 1 年生は基礎コースのみ、3 学期は 3 年生なし

平成 27 年度から、通学区域の北部からの通学の利便性を向上して生徒確保を確保するために、北部の多可町、西脇市、加東市から北条高校まで通学バスの運行を開始した。通学バスがなければ公共交通機関がないし、生徒利用がなければ運行できない状況の中で、バス会社と年間 60 万円の最低保証で通学バスを運行する契約を結んだ。通学バスの利用者は、表 9 にしめすとおり、平成 27 年度には 1 日平均 1 人程度だったが、平成 30 年度は 2071 人と 1 日平均 10.5 人が利用し、市外からの通学者数も増加している。

補助金が不要となった

表 9 通学バスの利用状況等

平成 29 年度からは、21 枚綴り回数券で 4000 円の補助を受け、実質 1 回 380 円で乗車できるようにして利用増加に繋がった。

年度	利用延べ人数	利用料	事業費(補助金)	市外北部からの通学者
H27	199人	119,400円	480,600円	9人
H28	537人	330,600円	257,400円	16人
H29	1,507人	644,000円	318,000円	21人
H30	2,071人	837,000円	384,000円	20人

ウ その他の支援事業

その他、市内小学校に生徒が出向いて、「絵本の読み聞かせ」「理科実験」「英語の絵本の読み聞かせ」などの(3)地域貢献活動の支援の、③市内小学校への出前講座支援事業や、(4) その他北条高校の活性化に関するもの、オーストラリアやタイでの研修を支援する④国際交流事業についても、参加希望者が毎年増加して、成果を上げている。

また、令和元年度には、協議会が市内地域住民から 13,000 人余りの学級数維持の署名を集めて県教育委員会へ陳情に行くなど、地域になくてはならない学校となっている。

(3) 見える化（外部発信）の進化

これらの取組により、生徒、教職員とともに、地域や P T A、同窓会が大きく変わり、地域になくてはならない学校となり、成果だけでなく改革のプロセスの見える化を図った。

表 10 にしめすとおり、入

表 10 平成 25 年度以降の卒業生の状況

学定員を満たし、国公立大学への進学者も増え、公務員や就職希望などの一人一人の夢をかなえる進路実現も可能になった。

卒業年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
現在の年齢	25	24	23	22	21	20	19
入学定員（人）	200	200	160	160	160	160	160
入学者数（人）	191	200	156	160	153	160	160
国公立大の現役合格者（人）	10	20	24	24	18	15	17
現役合格率（％）	5.4	10.3	15.0	15.1	12.2	9.6	10.8

また、実用英語技能検定

や G T E C 検定に、外国語科教員全員や A L T が支援をして、合格者の増加に繋がっている。

実用英語技能検定の合格者は、表 11 にしめすとおり、平成 26 年度から 2 級合格者も増え続け、同 29 年度には準 1 級、同 30 年度には 1 級合格者も現れ、結果的に大学入試改革を意識した先取りした取組の成果が出ている。また、不合格

表 11 実用英語検定の合格者（3 級を除く）

者がほとんどいなく、受験した生徒に聞くと、「日頃から聞くことや話すことを意識した授業で、英語で伝えることに慣れて、英検の面接でも緊張せず、普段の授業よりも易しかった。」と答えるなど、主体的・対話的で深い学びの授業改善の効果が感じられる。

級	H26	H27	H28	H29	H30
1 級	0	0	0	0	1
準 1 級	0	0	0	1	0
2 級	3	5	16	19	19
準 2 級	42	33	65	64	39

活性化協議会の支援による⑤PR事業により、パンフレットやポスターの作成、ホームページのリニューアルなどの広報活動にも力を入れた。地域の協力のもとに、様々な取組が可能となり、他府県の高校からの視察も増え、様々な雑誌にも紹介され学校改革の見本となった。

平成31年3月卒業生157人、令和2年3月卒業生147人に、卒業前の1月に実施したアンケートでは、「北条高校へ入学してよかったか」は、表12に示すとおり、「① 大変良かった」「② 良かった」と合わせて、H31卒業生は94.3%、R2卒業生は94.5%で、「北条高校での高校生活は楽しかったか」は、表13に示すとおり、「① 大変楽しかった」「② 楽しかった」を合わせて、H31卒業生は96.8%、R2卒業生は94.6%で、大変高い値を示している。

表12 「北条高校に入学してよかったか」

	平成31年3月卒業生				令和2年3月卒業生			
	1～3組	4組(コース)	合計[人]	割合[%]	1～3組	4組(コース)	合計[人]	割合[%]
① 大変良かった	21	11	32	20.4%	19	12	31	21.2%
② 良かった	89	27	116	73.9%	85	22	107	73.3%
③ あまり良くなかった	6	2	8	5.1%	3	0	3	2.1%
④ 良くなかった	1	0	1	0.6%	4	1	5	3.4%
計	117	40	157	100.0%	111	35	146	100.0%

表13 「高校生活は楽しかったか」

	平成31年3月卒業生				令和2年3月卒業生			
	1～3組	4組(コース)	合計[人]	割合[%]	1～3組	4組(コース)	合計[人]	割合[%]
① 大変楽しかった	27	19	46	29.3%	25	16	41	27.9%
② 楽しかった	86	20	106	67.5%	80	18	98	66.7%
③ あまり楽しくなかった	4	0	4	2.5%	4	0	4	2.7%
④ 楽しくなかった	0	1	1	0.6%	3	1	4	2.7%
計	117	40	157	100.0%	112	35	147	100.0%

「北条高校の魅力ある活動」(複数回答可)に対する質問は、10%以上の回答の項目を表14に示すとおり、H31卒業生、R2卒業生ともに、1位「様々なボランティア活動」、2位、3位は「アフタースクールゼミ事業」もしくは「国際交流事業」となっており、4位以下も高校側が力を注いだ活動に生徒が精一杯取り組んだ結果だと考えられる。

また、3年間で「一番の思い出」

の質問には、表15に示すように、H31卒業生、R2卒業生ともに、1位「学校行事」、2位「部活動」と続き、3位もしくは4位の「授業」が両学年とも、「英語」「世界史」「数学」「体育」「国語」の授業をあげているのは、教員の授業の工夫の新たな取組が、生徒にとって魅力となって定着してきた結果といえる。

表14 北条高校の魅力ある活動(10%以上)

魅力ある活動	H31年3月卒業生		R2年3月卒業生	
	人数[人]	割合[%]	人数[人]	割合[%]
① ボランティア活動	71	45.2%	64	43.5%
② アフタースクールゼミ事業	68	43.3%	41	27.9%
③ 国際交流事業	42	26.8%	53	36.1%
③ 英語パワーアップ学習	42	26.8%	22	15.0%
⑤ 大学見学・大学教授の講義	32	20.4%	23	15.6%
⑥ 選択科目の充実	31	19.7%	34	23.1%
⑦ 最先端科学技術研修	29	18.5%	24	16.3%
⑧ 希望に沿った学びと体験活動	28	17.8%	21	14.3%
⑨ 探究活動	26	16.6%	20	13.6%
⑩ 部活動	18	11.5%	11	7.5%
⑪ インターンシップ	16	10.2%	18	12.2%

地域連携・支援等を活用し、成果を効果的に上げるためには、①「内向き傾向から外向きへ」教職員だけでなく、地域を巻き込んで Win-Win の関係づくりにすることが必要であり、②「改善から改革へ」舵を切り、学習指導要領の改訂を積極的に活用した改革や、地域を巻き込んで課題を一気に変える攻めの学校経営を果たすことや、③「見える化（外部発信）の進化」として成果とプロセスの可視化や新たな手段での積極的な外部発信が大切であることがわかった。

表 15 北条高校での一番の思い出

	H31年3月卒業生		R2年3月卒業生	
	人数[人]	割合[%]	人数[人]	割合[%]
① 学校行事	89	57.1%	82	55.8%
② 部活動	45	28.8%	47	32.0%
③ 授業	9	5.8%	5	3.4%
④ 休み時間	7	4.5%	1	0.7%
⑤ 友達	3	1.9%	7	4.8%
⑥ 探究活動	2	1.3%	2	1.4%
⑦ 国際交流	1	0.6%	0	0.0%
⑧ ボランティア活動	0	0.0%	2	1.4%
⑨ 先生との会話	0	0.0%	1	0.7%
計	156	100.0%	147	100.0%

6. 今後の課題と方向性

全国から注目された改革であるが、市内の中学生の激減により平成 31 年度入学生から、学級減となり、令和 3 年度には 9 学級となる予定である。

兵庫教育大学教職大学院学校経営コースの講義で、北条高校の取組と課題を取り上げ、現職大学院生とともに改善プランを作成し、令和元年 12 月に北条高校と活性化協議会に提案した。

今後の方向性としては、①教育使命としての本業改革から、社会的使命を果たす存在改革、②地域や大学に加えて県教育委員会を巻き込んだ、チーム学校としての攻めの改革提案、③自校改革の部分最適から、北播磨地域全体や県内の小規模校全体の将来を考えた改革のエリア改革が必要だと考える。

7. 最後に

菅野恭介元校長の改革の最終年度であった平成 28 年度に教頭として赴任して 1 年間、それを継承し発展した北川真一郎前校長とも 1 年間一緒に勤めることができ、2 人の校長のリーダーシップのもとで 2 年間仕事をする事ができたことや、地域の支援を得ながら全教職員が団結して支援する体制に関わることができたことに、心から感謝している。

私自身は、県教育委員会時代に平成 26 年度から北条高校のコース設置に携わり、30 年度から 2 年間は北条高校の学校評議員として、学校行事の見学や公開研究授業の指導・助言などで、生徒や教職員の様子を引き続き見ることができた。1 つの学校に 3 つの立場で関ることができたことは、私の財産となっている。北条高校が、3 年後の 100 周年に向けて、さらに魅力ある学校として生き残れるように、心の底から願っている。

兵庫教育大学教職大学院学校経営コースの、浅野良一教授をはじめ、助言を頂いた学校経営コースの先生方、改善プラン作成に協力頂いた現職大学院生に、心から感謝申し上げます。

参考文献

- ・『北条高校等学校「学校案内パンフレット」』（2017 年、2018 年）
- ・『北条高校活性化協議会「総会資料」』（2018 年、2019 年）
- ・『兵庫県立北条高等学校研究紀要第 2 号「学思」』（2019 年、1－12 頁）